

秋分儀式

I O S 儀式魔術文書 AE11A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春秋分点の前後48時間以内に実施すること。2011年の秋分点通過は9月22日(木)14時30分(日本標準時)である。儀式内容は、言葉のカバラを準用して秋分の祝祭を実施する。

その際、未曾有の被害を招いた3月11日(金)の東北地方太平洋沖地震により被災した方々に、真摯なる哀悼を捧げ、ひたすら主の恩寵を請い願うものである。

1 言葉のカバラ

(1) 創造の言語

旧約聖書にあるように、言葉が神により啓示され、その第1の役割が創造のツールであったならば、意志伝達のための言葉の意味は二義的なものとなる。創造主は「イェヒ・オール」と言葉を発し、宇宙を創造したのであり、「光あれ」ではない。そして、ユダヤ教徒が主張するように、ヘブル語こそ創造、意志伝達、その他の目的で使用された神の言語であるならば、ヘブル語のすべての位相は無限の真実の一部となる。ヘブル語が数値をもつというのは、それ自体では、ラテン語のXが10を意味することと同じく神秘的な意味はない。しかし、その言語自体が神聖なものであれば、その意義は一変する。ある文字がある数字の印章となり、ある単語がある数値をもつことは、神聖なる言語の設計の一部となり、文字、単語、文節のもつ数値の解析は、神聖文字とそれらを飾る王冠の解釈に等しい。⁽¹⁾まして、神の名前であれば、その力は宇宙を揺るがす。

ユダヤ人の聖所が荒野の幕屋から、石の神殿に姿を変えたとき、居住神殿は顕在神殿へと変化した。「汝は余の住まいを造れしか。(汝が息子は)わが名前の館を建て。」(『サムエル記』下、7:5及び7:13)従って、神殿は神聖名のために存在した。そして、神聖名とは普通の名前とは異なり、感知し、記憶できる神の位相であるとされた。⁽²⁾

ユダヤの神秘的伝統のなかで、神聖名を含む言語の操作は、「呪符(イスラ)」と「封印(ハトマ)」という形で技術化した。メルカバ神秘主義の文献『大へハロース』(§367)には、次のようにラビ・アキバの天界への上昇が語られる。

「こは呪符及び封印、ひとつは地を縛り、もうひとつは諸天を縛る。

それらの前から、地は逃げ去り、宇宙は震え戦く。そは海の口を開き、蒼穹の鍵を閉じる。

そは諸天を開き、宇宙を氾濫させる。そは地を根こぎにし、宇宙を攪拌する。」⁽³⁾

ラビ・アキバが天界で受領した呪符と封印は、かれ(とその弟子たち)に、あらゆる宇宙における無制限の権能を授与したと言われる。⁽⁴⁾

この魔術的信仰の究極のかたちが「神の姿形」を纏うことである。それはヘルメス学の術者がエジプト神の姿形をまとうのとは異なり、非人格神である創造主の影絵であるシウル=コーマーをまとう危険な試みである。すなわち、「人が神のかたちを纏うことを望めば、自らを浄化する必要がある。天界の詠唱を学び、すべての天界のパスワードを知り、またはこれらを四肢に書き込む。しかして、天界へ上昇できる。」とある。⁽⁵⁾

(1) Joseph Dan, "Language of Mystics in Medieval Germany", in *Mysticism, Magic and Kabbalah in Ashkenazi Judaism*, Berlin : Walter de Gruyter, 1995, pp.11ff.

(2) Margaret Barker, *The Great Angel : A Study of Israel's Second God*, Louisville : Westminster / John Knox Press, 1992, pp.101f.

(3) *Übersetzung der Hekhalot-Literatur III* §§ 335-597, Tübingen : J.C.B.Mohr, 1989, p.60.

(4) Peter Schafer, *The Origins of Jewish Mysticism*, Oxford : Princeton University Press, 2011, p.294.

(5) K.E.Grozinger, "Between Magic and Religion-Ashkenazi Hashidic Piety" in *Mysticism, Magic and Kabbalah in Ashkenazi Judaism*, Berlin : Walter de Gruyter, 1995, p.31.

(2) 初期ユダヤ魔術の呪符

古代後期世界のユダヤ教徒、キリスト教徒及び異教徒たちは、エジプト時代のパピルスや薄板護符に書かれた神聖名の秘力を信じ、それを知る宗教的、魔術的実践者たちは神聖な力の源泉への直接の接触を享受していた。⁽⁶⁾

当時のユダヤ魔術の生成物は2種類あった。ひとつは呪符と召喚の魔術鉢であり、顧客の個別の要請を受けて、文言が変えられた。下記はモントゴメリーが収集した魔術鉢に記載された呪文の部分訳であり、下線部は顧客たちの名前であり、この後、繰り返し名前が列挙され、考え得るすべての悪霊の攻撃からの守護を宣言している。

「汝が御名により、封印の主よ。大いなる愛の救済者よ。われは汝を封縛し、封印する。
アスペナズの子ゴイよ、シモイの娘なるゴイの妻マスコイよ、その息子アルドイよ、
かれらのすべての息子と娘たちよ、その配偶者よ。大いなる神の御名により、
シャダイの大封印により・・・」⁽⁷⁾

そして、二つ目は、上記の魔術を行うための呪文集、召喚文集、いわゆるレシピ本（最初期のグリムワール）である。2種類の生成物は、職業的魔術師の間で保管され、ときには流通し、顧客に応えるため使用されつづけた。⁽⁸⁾

これらは通俗的なユダヤ魔術であるが、原典となった古代後期の資料はごく少数しか現存しない。たとえば、カイロ・ゲニザに散見されるギリシャ語起源の魔術の言語（ヴォケス・マジカエ）、印章、他の諸要素などは複製に複製を重ねたものと推察される。⁽⁹⁾

むろん、古代後期のギリシャ語魔術のなかにもユダヤ魔術の影響が見受けられる。たとえば、IAO、SABAOS、ADONAI、PIPIIなどはヘブル語の神聖名の転訛である。⁽¹⁰⁾

黄金の夜明け団が多用した「生まれなき者」の儀式は、ギリシャ・エジプト魔術パピルスにある「頭なき者」の儀式（PGM V 96-172、『ユダヤ人神聖文字刻印者の碑文』）⁽¹¹⁾をもとにしている。召喚の対象たるアケファロス（頭なき者）は、オソロノフリス（アサール＝ウン＝ネフェル）、すなわちオシリス神であるとされる。しかし、ユダヤ人碑文という名前からも、呪文のなかに混交されたユダヤの神聖名からも、天使や、モーセや、長老たちへの言及からも、当時のユダヤ人魔術師たちが「頭なき者」の召喚を試みたり、類似のコプト語様式のエジプト魔術に手を染めたことは否定できない。⁽¹²⁾

同じ古代後期に成立したとされる『バビロニア・タルムード』のなかにも、魔術的な伝承、伝説及び実践的助言が散見される。神が天使に与えた「四つの鍵」（糧、生誕、雨及び墓所の鍵）という護符、ゲニザのなかに「われ汝に誓言す（マシュビア・アニ・・・）」などの公式、言語装置が置かれた。⁽¹³⁾

(3) ゲドゥラーの詠唱

ここでメルカバ神秘主義に話を戻そう。へハロース文書は説明文と詠唱文からなる。詠唱

(6) Don C. Skemer, *Binding Words : Textual Amulets in the Middle Ages*, University Park : The Pennsylvania State University Press, 2006, p.108.

(7) Charles D. Isbell, *Corpus of the Aramaic Incantation Bowls*, Eugene : Wipf and Stock Publishers, 1975, p.24.

(8) Todd Klutz, *Magic in the Biblical World : From the Rod of Aron to the Ring of Solomon*, London : T&T Clark International, 2003, p.170.

(9) Gideon Bohak, *Ancient Jewish Magic*, Cambridge : Cambridge University Press, 2008, p.166.

(10) Lynn LiDonnici, "'According to the Jews : ' Identified (And Unidentifying) 'Jewish' Elements in the Greek Magical Papyri", in *Heavenly Tablets : Interpretation, Identify and Tradition in Ancient Judaism*, Leiden : Brill, 2007, p.88.

(11) Hans Dieter Betz, *The Greek Magical Papyri in Translation: Including the Demotic Spells*, Chicago : University of Chicago Press, 1986, p.103.

(12) John M. G. Barclay, *Jews in the Mediterranean Diaspora : From Alexander to Trojan (323BCE-117CE)*, Berkeley : University of California Press, 1996, pp.121f.

(13) Lawrence H. Schiffman & Michael D. Swartz, *Hebrew and Aramaic Incantation Texts from the Cairo Genizah : Selected Texts from Tayler-Schechter Box K1*, Sheffield : Sheffield Academic Press, 1992, pp.23-27.

(Hymns)とは抑揚をつけた語り口を意味する。シャントとは異なり、歌ではない。あくまでも物語である。しかし、詠唱とは言語を使用する最高の形態とされる。⁽¹⁴⁾

なかでも『大へハロース』は、様々な詠唱群を含んでいる。ゲドゥラー詠唱 (§§81-93)、ケドゥシャー詠唱 (§§96-104)、殉教者の説話 (§§107-121) 等である。その中でゲドゥラー詠唱は、幻視者とそのコミュニティとの関係の特徴づける緊張感を表している。⁽¹⁵⁾

ゲドゥラー詠唱は、その冒頭から「なべて大いなるものは(ゲドゥラー・ミ=クラム)・・・」と語り始めるため、そのような名前がついた。⁽¹⁶⁾

「なべて大いなるものは、かれに結びつけられ、かれを導き、アラヴォート・ラキアの宮殿の部屋にかれを伴い。そして、かれを玉座の右の(神の)栄光の座に置き、そしてしばしば、かれは主イスラエルの神の反対側に立つ。かれらが栄光の座の前で行うこと、すべてを見るために、未来の世界に起こることすべてを見るために。」 (§81)⁽¹⁷⁾

ゲドゥラー詠唱の部分には神名はあまり出てこない。唯一の例外が、#C(+ (タッツ))であり、この神名と対になるC(gyt (ティゴッツ))である。⁽¹⁸⁾

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベイショナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体(かれらはアストラル体と呼称)を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間(Robing Room)において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上「肉の衣を去る」までは、実効上の神(天使を使役する者)として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印(Mtwx)」は護符(amulets)に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽¹⁹⁾

(14) Naomi Janowitz, *Icons of Power : Ritual Practices in late Antiquity*, University Park : The Pennsylvania State University Press, 2002, p.96.

(15) Ra'anana S. Boustani, *From Martyr to Mystic*, Tubingen : Mohr Siebeck, 2005, pp.43, 251.

(16) Peter Schafer, *The Origins of Jewish Mysticism*, Oxford : Princeton University Press, 2011, p.248.

(17) *Übersetzung der Hekhalot-Literatur II §§ 81-334*, Tubingen : J.C.B.Mohr, 1987, pp.1f.

(18) Klaus Herrmann, "Jewish Mysticism in the Geonic Period : The Prayer of Rav Hammuna Sava", in *Jewish Studies between the Disciplines*, Leiden : Brill Academic Publications, 2003, p.195.

(19) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽²⁰⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈祷する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽²¹⁾

(2) 聖四文字の呼吸

聖四文字の呼吸においては、ベリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、hy を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する際に喉を空気が通る音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽²²⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 呪歌の力

本儀式においては呪歌を使用する。

ヘブル語においてシーラー hry# (複数形シーロース twry#) とはシャントを意味する言葉である。『申命記』第31章に説明されるとおり、折りに触れユダヤの民が歌うようにと定められた歌のことだ。

ラビ・シェファール・ゴールドによれば、シャントの恍惚体験は全き献身による観想的空間への移行を可能とする。観想的沈黙の文脈のなかにおいてシャントの力が深化し、発展するための空間が作り出される。シャントは『詩編』23章5に示された「溢れる盃」(コシ・ルバヤ hywr yswk) である。そして、あふれる盃には2種類があり、シャントを唱える者たちのなかに生成される。

第1の盃は、各人の心臓の上にある内的な盃であり、盃には生命と愛の源泉から途切れることのない流れが注ぎ込まれあふれ出ている。シャントは、その流れと自分自身を再結合する。

第2の盃は、シャントを唱える集団のなかに生成される。唱和するシャントの音と、注意力の共有が盃を生む。その盃には神聖な流れが注ぎ込んでおり、集団に属する誰でも盃からあふれる神聖な流れに触れることができる。⁽²³⁾

(4) 詠唱の力

ヘブル語の神聖名は、文字として書かれた場合でも声に出して歌うのと同等の効力を発する。しかし、シャントを正しく用いると特別な効果が生じるのは前出のとおりである。

一方、ヘハロース文学によくある長い呪文は、シャントではなく詠唱(Hymns)で行われた。それは深く感情をこめ物語られたのである。詠唱部分以外の説明文を読むと、言われた(アマール)とか、物語られた(シロース)と書かれてある章句は詠唱である。⁽²⁴⁾

『マナセの祈り』に曰く「神は深淵を閉じ、力強く誉れある自らの名で封印した」⁽²⁵⁾

(20) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(21) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

(22) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

(23) Rabbi Shefa Gold, "That This Song May Be a Witness : The Power of Chant", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

(24) Peter Schafer, *The Origins of Jewish Mysticism*, Oxford : Princeton University Press, 2011, p.246.

(25) The Player of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(5) 感覚の遮断

ある無記名のカバリストはヒトボデドゥースの要点は目を閉じることだと述べた。⁽²⁶⁾

室内を暗くして黎明視を求めるのも、ほぼ同等の行為であるが、感覚が遮断され、物理的な世界から隔離されることで、幻視が深まる。瞑想中は、目を閉じて、または、半眼となっていることが望ましい。むろん、所作を伴い、危険のある場合は異なる。

(6) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群⁽²⁷⁾」、言語入力 of 混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽²⁸⁾）などを利用する。

(7) 祭司の手

アブラフィアは、『セフェル ハ・ヘセク』において、手を動かす作法を論じた。⁽²⁹⁾

「両目を天に向け、左手と右手を天に掲げよ。あたかも祭司がなすように、(10本の)指を分け、5本を一方に、5本を他方に向けよ。左手の2本と、右手の2本(つまり、両手の)の小指(ケミザー)と薬指(ツエルト)をひとつにし、反対側の2本もひとつにする。両者を分け、親指は立てたままとする。・・・そして、神のもとにあげていた両手をただちにおろし、10のセフィロトを思いつつ、5つのセフィロトが5つのセフィロトの上にあるように、左手を心臓の上に置き、右手をその上に置く。」

両手の10本の指はセフィロトに照応し、開いた手はメノラーのかたちをしている。



5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。(家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等)、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い(儀式的沐浴)、法衣(または身体を締め付けない服装)に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(26) Idel, *Studies in Ecstatic KABBALAH*, p.134.

(27) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(28) グザヴィエ・スロン『認知神経心理学』白水社、1995年、63、64頁。

(29) Idel, *The Mystical Experience in Abraham Abulafia*, pp.29f.

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I O S の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(y)ytss syr(w))

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(ggb gb))

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」()pyt Myr))

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(h)y yst syr(w))

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(l)wyd wy(r) gb l(t tyb))

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(hy dydy dx) ss r+yq K(p w))

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」(styt why whz wy wyx why tp Pw))

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。

「I O S の神殿に四方位の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

PC：「エロウイイー

(yhl) わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

(yb twhtw)n h)w# hm#n 汝が授けし息吹よ。)⁽³⁰⁾

テホラー・ヒー

(yh hrh+ そは清浄なり。)

アター・バラター

(ht))rb ht) 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

(ht) rcy ht) 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

(yb ht) xpn ht) 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー

(wrqb trm#m ht)w また、汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

(ynpmm w)l+l d+) ht)w また、汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「パラフター・ヴェ・ヤツアルター

(ht) rcyw ht))rb 創造と形成)」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)

ヒー・ネイ・ニー (yn hnh われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー (hy yn) hnh われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー ((#why hn) 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

((#why hn) hy 息吹の加護あらんこと)」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

全員：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

(30) 来る ()wb) の変化形 (yb) は、「豊が我がうちに入りたり (xwr yb)btw)」(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (l)r#y yhl) 主の力よ)」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

PCは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
ホウシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ (hn) (#why われを助けよ)」

PCはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)
全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

PCは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
アーニー・ポー (whb yn) われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー (yn(nk Cr) カナンの地よ)」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 大いなる詠唱

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは右手を祭司の手のまま祭壇の上に高く掲げる。左手は脇に垂らし、手を握っている。右手の先端は、神殿の東壁の右側の上端を指している。

全員が祭司の手をつくり、右手をあげる。

PC：「なべて大いなるものは、かれに結びつけられ、かれを導く。

第7の宮殿にかれを伴い。かれを玉座の右、神の栄光の座に置き、

かれは主イスラエルの神、#C(+ (タッツ) の反対側に立つ。

諸天使が栄光の座の前で行うことすべてを見るために。

未来の世界に起こることすべてを見るために。(§81)

#C(+ (タッツ) こそ名前なり。」

全員：「#C(+ (タッツ) こそ名前なり。」

全員が右手の甲にちりちりと皮膚を刺激する軽い痛みを感じる。手の甲の皮膚の上に、ヘブル文字テトが青く浮き出ている。

PCは右手を脇に下ろし、指を握り、左手を祭司の手にして祭壇の上に高く掲げる。

左手の先端は、神殿の東壁の左側の上端を指している。

全員が祭司の手をつくり、左手をあげる。

PC：「なべて大いなるものは、人の子らのすべての技を知るべし。

秘密の部屋で造られしもの、さにあらぬもの。

人の秘密を開示するもの、人はそれを知り、認める。(§83)

C(gyt (ティゴッツ) こそ名前なり。」

全員：「C(gyt (ティゴッツ) こそ名前なり。」

全員が左手の甲にちりちりと皮膚を刺激する軽い痛みを感じる。手の甲の皮膚の上に、ヘブル文字タウが青く浮き出ている。

PCは両手を祭司の手とし、左手の上に右手を重ねて祭壇の上に高く掲げる。

全員が祭司の手をつくり、手を重ねてあげる。

PC：「なべて大いなるものは、天界の審判の法廷にあり、日に3度トランペットを吹き鳴らし、

hyg hyb hy (ヤー・パヤー・ガヤー) の名前により、

メルカバに降下し、上昇する。(§92)

#C(+ C(gyt (ティゴッツ)・タッツ) こそ名前なり。」

全員：「#C(+ C(gyt (ティゴッツ)・タッツ) こそ名前なり。」

PCは両手を下ろし、左手を内側に胸の前に組む。

全員が、手を胸の前に組む。

PC：「なべて大いなるものは、秘密、秘密の秘密、

隠されしもの、隠されしものの隠されしもの、

秘儀、秘儀の秘儀を開示したり。

すべて隠されし者の主こそ名前なり」

全員：「すべて隠されし者の主こそ名前なり」

全員が手を当てた胸にちりちりと皮膚を刺激する軽い痛みを感じる。胸の皮膚の上に、ヘブル文字タウとテトが青く浮き出ている。

PC：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の二者よ。
わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。
汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽³¹⁾

PCが高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(yd# Cwbq hyx) #y yl 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー
(hyx) #y yl yd# Cwbq 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
(Cwbq hyx) #y yl yd# 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・ゲー・リアー ()yl gw Myts)」

全員：「隠され開示されたり。」

8 秋分の主祭

聖化した四方位の風に取り巻かれ、神聖なる貌の臨在のもと、秋分の秘儀に与るときが来た。

PC：「この場は、光と闇の至聖処なり。
今、頭上に秋分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
秋分の執行を宣言する。」

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

(31) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。
靈の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (hw#hy)
万軍の将、靈の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (h#why)
戴冠せる王、靈の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖靈は、森羅万象の上であり、下であり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける靈と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《靈》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO XIA

IMPRIMI POTEST : I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MMXI

秋分儀式 A E 1 1 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2011

2011年9月18日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：古代後期の呪符「馬に乗る騎士」